

Index

神経の再生を目指して	1~2
研究室紹介	3
平成26年度科学技術週間参加行事 レポート	3
第1回所内研究討論会を開催しました	4

表彰	5
平成26年度理事長研究奨励費 採択者の決定	5
平成26年度科学研究費助成事業 の採択状況	6~7
老年学公開講座 開催予定	8
主なマスコミ報道／編集後記	8



科学技術週間参加行事
ポスター発表（P.3）



神経の再生を目指して

老化制御研究チーム 研究員 池谷 真澄

この4月から老化制御研究チーム生体環境応答の研究員として従事しております池谷真澄と申します。当センター研究所に来る前は、横浜市立大学にて神経発生と神経再生の研究を行っていました。発生とは、精子と卵子が受精して生命が誕生してから成長していく過程を指します。つまり、神経発生の研究とは神経の成長過程を知ることです。再生とは壊れた細胞をもう一度発生させることであり、再生医療を考える上で発生の研究はとても重要です。

複雑な脳

ヒトの脳は、1000億を越える神経細胞が複雑な回路を構築して成り立っています。ヒトは脳で感じ、考え、身体を動かします。生命維持に重要な内臓運動の制御も、脳や脊髄などの神経系が制御しています。ヒトの活動には、全て神経が関わっており神経系を理解することがヒトを理解する上でとても重要なのですが、神経系は非常に高度で複雑であるため未解明の部分が多くあります。世界には神経系に病を抱える患者さんが多くおられますが、脳や脊髄などの中枢神経系は自然には再生しないので再生医療の発展が急がれています。しかし、その複雑さ故に再生医療も一筋縄ではいかず、人工臓器などでの機能の代替もできません。

神経発生・再生の重要テーマ『軸索ガイダンス』

神経を再生させるためには、まず壊れた神経細胞を補うこと、次に神経細胞同士の正確なネットワークを作らせること、この2点が重要になってきます。iPS細胞などの幹細胞により壊れた神経細胞を補うことが現実的になってきた今、私は後者のネットワーク形成の研究が神経再生のカギになると考え、研究を行ってきました。生まれたばかりの神経細胞は軸索とよばれる糸状の突起を伸ばし、目的の細胞と結合します。神経細胞は沢山の突起を伸ばし、互いに連結して非常に複雑かつ秩序だったネットワークを形成します。まるで糸電話のようにお互いに情報のやりとりをしています。軸索がネットワークを形成するこの現象を『軸索ガイダンス』と呼びます。この軸索の長さは、ヒトでは1メートルにも及ぶものもあります。生まれたばかりの球形の神経細胞は直径10マイクロメートル（1ミリメートルの100分の1）程度のサイズであることから、軸索は途方もない距離を旅して正確に目的の細胞と結合するという困難を乗り越えます。目的の細胞に向かって伸びていく軸索の先端には、成長円錐と呼ばれる手のひら状の構造体が存在します。この成長円錐が周囲の軸索ガイダンス分子（軸索ガイダンスを誘導する分子）を受けとり軸索が伸びるべき方向を決

め伸長します。軸索ガイダンス分子は、まるで道路標識のように軸索を目的地へと誘導します。軸索の伸長や侵入を阻む反発性分子、軸索を引き寄せる誘因性分子、軸索が進んでいく足場になるような接着分子、軸索を束状にまとめる分子、軸索の枝分かれを促進する分子など多様に存在します（図1）。

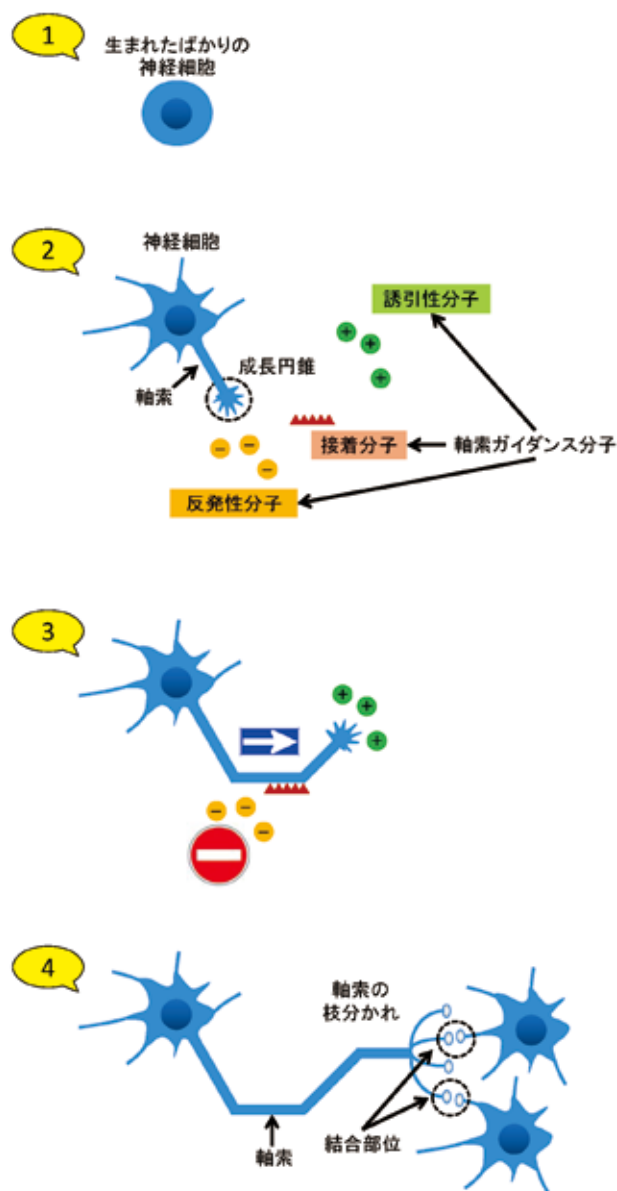


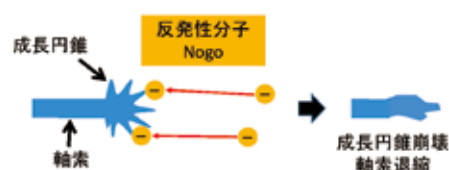
図1. 軸索ガイダンス

新しい軸索ガイダンス分子『LOTUS』の発見から再生医療へ

以前の研究室で、私達は新しい分子を発見し、様々な実験により軸索の束化や軸索の枝分かれを制御している新しいガイダンス分子であることを明らかにしました。マウスの脳の一部にLOTと呼ばれる軸索の束があります。私達は、そのLOTを道先案内する物質という意味を込めてLOT usher substance、これを縮めて『LOTUS』と名付けました。さらなる研究の

結果、LOTUSにはNogoという反発性分子を抑える働きがあることがわかってきました。このNogoという物質は、神経の再生を妨げる悪玉分子として知られており、脳や脊髄神経の軸索が再生しない原因物質であると言われています。反発性分子Nogoは、大人の身体の至る所に存在し、軸索の伸長を邪魔しています。現在、動物実験によりデータを積み重ねている最中であり、臨床適用までにはまだ時間がかかります。いずれはLOTUSを使ってNogoの作用を打ち消すことにより神経を再生させられるのではないかと期待しています（図2）。

1) LOTUSがない場合



2) LOTUSがある場合



図2. LOTUSによる神経の保護機能

発生研究から老化研究へ

私は、上記の様に発生の研究を再生の研究に繋げる研究をしていましたが、現在は老化の研究に従事しています。老化は、病気とは違い元気な人でも100%必ず直面します。今後、更なる高齢化を迎えるに当たり老化メカニズムの解明は急務であると考えています。また、私は老化とは発生の裏返しの現象であると考えており、発生研究で得られた知見は老化の研究に活かせると考えています。現在は、水素による症状改善メカニズムの解明を研究テーマとして動物実験を行っています。水素によって様々な病気の症状改善効果があることが知られており、その論文の数は300を超えています。しかし、水素による症状改善のメカニズムは未だ解明されておらず、適切な水素の投与にはそのメカニズムの解明が必須です。メカニズムが解明されれば、今まで以上に多くの加齢に伴う疾患の治療に適用が可能になることは勿論、水素による疾患予防も提案可能となります。また、より効果的な水素投与法の開発も可能になると考えられます。加齢に伴う疾患に水素による新たな治療戦略を確立することで、その成果を治療と予防の両面でヒトへの応用に繋げることができればと考えています。

研究室紹介

神経画像研究チーム 脳機能研究

～研究紹介～

私たちの研究室では、ポジトロン放出断層撮影法（PET）に関する研究を行っています。PET は、ポジトロン（陽電子）放出核種でラベルした薬剤を被験者に投与し、その分布を体外から特殊なカメラで撮像することにより、様々な生体機能を画像として評価することができます。PET の研究は、放射性薬剤の合成から臨床 PET データの収集とその解析、また試験管内や動物等での PET や核磁気共鳴断層撮影（MRI）も含む非常に幅の広い学際領域研究です。脳機能研究では、放射性薬剤合成や動物実験等を駆使した新規放射性薬剤の開発から初期臨床研究における動態解析や被ばく線評価までを中心に行っています。また、臨床研究に必要な放射性薬剤の供給や画像解析ツールの開発も行い PET 画像診断研究を支援しています。

～メンバー紹介～

理学、薬学、医学、工学と専門性の異なる常勤研究員4名（写真）と非常勤研究員3名です。



薬剤開発担当
石渡研究部長、豊原専門副部長



臨床研究担当
石橋研究員



画像・データ解析担当
坂田研究員

平成26年度科学技術週間参加行事レポート

4月9日（水）に板橋区立文化会館にて、科学技術週間参加行事を開催いたしました。まず、老年病理学研究チームの田久保海誉研究部長より、「老化とがん化を結びつけるもの：テロメアの不思議」と題して、「細胞の老化とはどういうことか」、「テロメアとは何か」、「テロメア短縮とがんの発生の関係」などについて、様々な図表を交えてお話がありました。次に、稲松孝思顧問医より、「近代医学史における養育院と東京府病院」という題目で当センターの前身である養育院の歴史について講演がありました。

また、今年度これらの講演に加え、ポスター発表も行いました。9つの研究チームが、それぞれの研究内容を紹介するポスターを掲示し、ブースに来られた方々に説明を行いました。ブースでは、研究者の説明に対し熱心な質問があったり、和やかに談笑する場面が見られたりと、来場者の方々とコミュニケーションをとることができ、たいへん有意義な時間となりました。





第1回所内研究討論会を開催しました

老化制御研究チーム 研究部長 石神 昭人

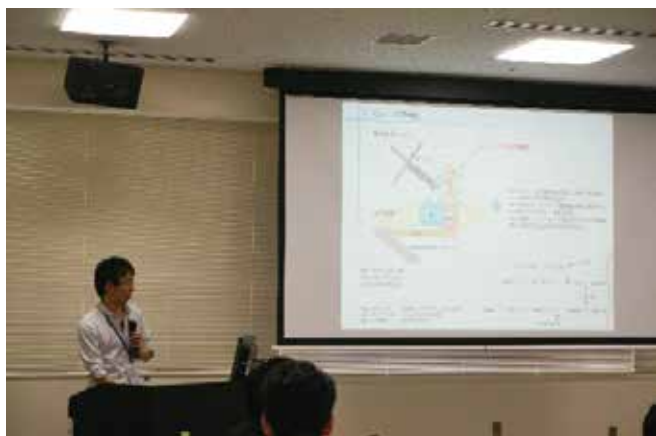
5月12日（月）センター研究所において若手研究員を発表者とした「第1回所内研究討論会」が開催されました。この研究討論会は、研究所内の異なる研究室に所属する研究員同士の交流やお互いの研究内容や研究成果に対する自由な議論の場を設けるのが目的です。そのため発表者はもちろん、研究討論会の司会、進行も若手研究員が行います。第1回目の所内研究討論会では老化機構研究チームの山田健之研究員が「O-マンノース合成酵素とドリコールリン酸マンノース合成酵素の関連の解析」について、老年病態研究チームの森秀一研究員が「筋量・筋力の維持における神経筋シナプスの役割」について研究発表を行いました。また、それぞれの司会は森秀一研究員と赤阪啓子研究員が担当しました。発表後には、多くの若手研究員から次から次へと建設的な質問や研究へのアドバイス、素朴な実験に対する疑問が多く寄せられ、盛会に終わりました。

研究討論会終了後、山田健之研究員のコメント

今回は私の発表を聞いていただき、ありがとうございました。まだまだ勉強不足な私ですので、皆様からの質疑応答を大変ありがたく感じました。次回はより良い発表をできるよう、これからも精進していきます。会に対しては若手研究員の方からの質問が予想以上に多く、とても良いものであったと感じています。また一方で、大学院生の参加を呼びかけても良いのではないかとも思いました。大学院生が聞いても、良い勉強の場になると思います。

研究討論会終了後、森秀一研究員のコメント

私は、討論会が新たな研究交流の場になることを期待しています。単純に自分の研究領域外の知識を得るということだけでなく、他の研究チームが持つ研究手法または実験技術を知ること、それらを自分たちの研究へと繋げていくことも可能になると思います。また、討論会での発表を通して、日常の研究活動でも気軽に尋ねることができる（「この実験は〇〇さんが発表していたので聞いてみよう」といった具合に）きっかけになればと思います。



山田健之研究員の発表



森秀一研究員の発表風景

研究討論会終了後、赤阪啓子研究員のコメント

第一回目の討論会ということで質問が少ないかと思っていたのですが、時間内に収まらないほどの質問・討論が行われ良いスタートがきれたと思います。自分とは異なる分野の発表を聞くことはもちろん、それに対するさらに違う分野の研究員からの質問はするどいものや意外なものも多く、とても勉強になりました。若手研究員は大きな学会等では座長などになる機会もあまりないので、司会を経験するという点でも良い会であると思いました。



第18回クリニカルPET賞

神経画像研究チーム 研究部長 石渡 喜一

1994年に先端医療技術研究所により創設されたクリニカル PET 賞は、ポジトロン断層法を用いた臨床医学研究において多大な貢献のあった研究者に贈られる医学賞です。

今回、PET 研究の黎明期より30年にわたり、がんや脳の PET 診断薬の開発に携わり、薬剤の生体内モデルの構築に関する先駆的な研究でがん研究に貢献し、アデノシン受容体やシグマ受容体プローブなど多数の PET 薬剤を世界で初めて臨床使用するファーストインフューマン研究を実施し、PET 臨床研究の可能性を広げることが高く評価されました。



平成26年度 理事長研究奨励費 採択者の決定

区 分	所 属	氏 名	研 究 課 題 名
個人	老化機構研究チーム プロテオーム研究	津元 裕樹	新規O-GlcNAc 化プロテオーム解析法の開発と応用
個人	老化制御研究チーム 生体環境応答研究	池谷 真澄	中枢神経系におけるミトコンドリアをメディエーターとした水素分子の作用機序解明
個人	老化脳神経科学研究チーム 自律神経機能研究	渡辺 信博	骨格筋の痛みが及ぼす循環機能への影響
グループ	高齢者健康増進事業支援室	河合 恒 【共同研究者】 大淵 修一	住民主体の介護予防のまちづくりは地域の互助機能向上に有効か ～介入3年目の追跡調査による効果検証～



平成26年度 科学研究費助成事業(科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金)の採択状況
(学術研究助成基金助成金の継続課題を含む)

平成26年5月現在

研究種目	新規	氏名	所属研究チーム	研究課題	交付決定額 (円)	
					直接経費	間接経費
新学術領域研究 —研究領域提案型	2件	☆ 萬谷 博	老化機構	脳発生過程におけるO-マンノース型糖鎖の機能解析	3,500,000	1,050,000
		☆ 遠藤 昌吾	老化脳神経科学	活性酸素種が担うマウス運動記憶の分散効果	3,600,000	1,080,000
基盤研究 (A)	1件	田中 雅嗣	老化制御	世界および日本の瞬発系・持久系選手の運動機能に関連する機能的多型の解明	9,600,000	2,880,000
基盤研究 (B)	13件	村山 繁雄	老年病理学	レビー小体病理進展機序の解明	4,700,000	1,410,000
		石神 昭人	老化制御	ビタミンCの不足が胎児の発生、成長、老化に及ぼす影響	4,000,000	1,200,000
		高橋 龍太郎	副所長 (社会科学系)	高齢者による医療の選択と意思決定を支える体制の構築に関する研究	5,400,000	1,620,000
		新開 省二	社会参加と 地域保健	高齢期の虚弱化予防に向けた戦略的研究	4,200,000	1,260,000
		重本 和宏	老年病態	M usk 抗体陽性重症筋無力症の新治療法を可能にする病態メカニズムの研究	4,000,000	1,200,000
		石渡 喜一	神経画像	代謝型グルタミン酸受容体 1 型の分子イメージング：ファーストインヒューマン研究	2,300,000	690,000
		野中 久美子	社会参加と 地域保健	世代間交流が高齢者の健康へ及ぼす影響および機序の解明	2,064,217	619,265
		遠藤 玉夫	副所長 (自然科学系)	糖鎖による脳神経機能調節の分子基盤の解明とその破綻による疾患	4,900,000	1,470,000
		藤原 佳典	社会参加と 地域保健	高齢者の孤立の健康アウトカムへの影響および地域包括ケアによる予防策の検証	2,300,000	690,000
		豊原 潤	神経画像	実用化を目指した有望な DNA 合成画像診断薬 4DST の 18F 化とその臨床応用	4,200,000	1,260,000
		西村 隆	老年病態 (協力研究員)	心拍同期制御を用いた補助人工心臓による広範囲心筋梗塞に対する新しい治療法の確立	2,700,000	810,000
		☆ 金 憲経	自立促進と 介護予防	サルコペニック・オペンシティ早期予防を目的とした総合的支援システム構築と効果検証	5,200,000	1,560,000
		☆ 村山 陽	社会参加と 地域保健	世代間援助の円環モデルに基づく多世代共生型事業の開発	7,900,000	2,370,000
基盤研究 (C)	35件	三浦 正巳	老化脳神経科学	「注意」における視床線条体入力の生理的役割	700,000	210,000
		堀田 晴美	老化脳神経科学	咀嚼運動が脳機能に及ぼす効果の神経性機序	1,100,000	330,000
		大澤 郁朗	老化制御	健康長寿に向けた分子状水素の酸化ストレス防御機構解明	1,100,000	330,000
		島田 千穂	福祉と生活ケア	高齢者施設の看取りケアにおける実践知の生成と蓄積に関する研究	1,300,000	390,000
		新名 正弥	福祉と生活ケア	震災・自治体・地域福祉：震災被災地における被災高齢者支援活動のプロセス評価研究	1,500,000	450,000
		増井 幸恵	福祉と生活ケア	高齢期の身体的問題に対する心理的適応過程の解明—老年の超越の役割の縦断的検討—	1,400,000	420,000
		倉岡 正高	社会参加と 地域保健	シニアの学校支援ボランティアの活用に向けたコーディネート力向上プログラムの開発	900,000	270,000
		内田 さえ	老化脳神経科学	卵巣交感神経支配に対するエストロゲンの可塑的影響の解析	1,300,000	390,000
		石川 直	老年病理学	テロメア依存性細胞老化に関与する遺伝子の機能解析：hTERT、WRNを中心に	800,000	240,000
		石崎 達郎	福祉と生活ケア	介護保険サービス利用者の療養場所移動の実態とケアの質確保に関する研究	1,400,000	420,000
		吉田 祐子	自立促進と 介護予防	地域在住高齢者の食行動とそれを取り巻く心理社会的要因の探索に関する調査研究	500,000	150,000
		宮崎 剛	老年病態 (協力研究員)	骨代謝におけるメカノセンサー分子 p130Cas の機能解析	1,200,000	360,000
		稲垣 宏樹	自立促進と 介護予防	他者評価式精神健康尺度の開発：地域に潜在するハイリスク高齢者の早期発見を目指して	1,500,000	450,000
		安永 正史	社会参加と 地域保健	地域在住の高齢者ボランティアを活用した小1 プロブレムへの介入研究	1,300,000	390,000
		本田 陽子	老化制御	宇宙環境を利用した線虫の寿命と老化速度に及ぼす重力の影響に関する研究	600,000	180,000
		太田 美緒	福祉と生活ケア	介護選択の決定要因	700,000	210,000
		新井 富生	老年病理学 (兼務)	高齢者胃癌の組織学的多様性に対応する遺伝子変化の関連解析	1,000,000	300,000
		本間 尚子	老年病理学	加齢に伴う大腸癌病態メカニズム変化とエストロゲンの関係についての包括的研究	1,400,000	420,000
		仲村 賢一	老年病理学	ヒト表皮のテロメア長と日光老化・癌の発生	1,400,000	420,000
		松田 陽子	老年病理学 (協力研究員)	脾臓における Nestin のリン酸化制御による抗腫瘍効果の検討	1,400,000	420,000
		時村 文秋	老年病態 (協力研究員)	骨細胞におけるミトコンドリア転写因子 Tfam の機能解析	1,200,000	360,000
		平野 浩彦	自立促進と 介護予防	変性疾患を原因とした認知症の摂食・嚥下障害の評価および対応法に関する調査研究	1,200,000	360,000
		☆ 佐久間 尚子	自立促進と 介護予防	高齢者の認知機能に与える絵本の読み聞かせ活動と加齢変化：10 年目の追跡	1,300,000	390,000
		☆ 藤田 泰典	老化機構	インスリン抵抗性の指標となる新規血中バイオマーカーの探索	1,200,000	360,000
		☆ 菊地 和則	福祉と生活ケア	養介護施設従事者等による高齢者虐待への市町村・都道府県の対応に関する追跡研究	400,000	120,000
		☆ 児玉 寛子	福祉と生活ケア	医療的ケアを行う家族介護者における在宅介護継続プロセスに関する研究	1,300,000	390,000

研究種目	新規	氏名	所属研究チーム	研究課題	交付決定額 (円)	
					直接経費	間接経費
	☆	伊集院 睦雄	自立促進と介護予防	高齢者における TOT 現象の発現機序について	1,500,000	450,000
	☆	高尾 昌樹	老年病理学	プリオン病剖検脳を用いたプリオン蛋白軸索輸送と変性疾患関連蛋白の神経病理学的検討	1,500,000	450,000
	☆	萬谷 博	老化機構	APP 代謝における糖鎖機能の解析	1,400,000	420,000
	☆	泉山 七生貴	老年病理学	膀胱乳頭状尿路上皮腫瘍の組織学的悪性度の進行の原動力は何か	1,600,000	480,000
	☆	相田 順子	老年病理学	パレット食道のテロメア長測定：日米欧のパレット食道の定義統一のために	1,300,000	390,000
	☆	加賀美 弥生	老化制御	アルツハイマー型認知症の発症や神経細胞傷害に及ぼす蛋白質シトルリン化の病理解析	2,800,000	840,000
	☆	森 寛子	福祉と生活ケア	脳血管疾患による在宅胃ろう造設者への摂食・嚥下機能向上支援に関する要因の解明	1,200,000	360,000
	☆	杉原 毅彦	福祉と生活ケア (協力研究員)	全エクソソームと血中 PAD4 測定による関節リウマチの新規バイオマーカー探索	1,500,000	450,000
	☆	本田 修二	老化制御	宇宙環境において発動する老化制御遺伝子ネットワークの解明	1,400,000	420,000
挑戦的萌芽研究	12件	山川 直美	トランスレーショナルリサーチ推進室	エピゲノム解析を用いた新規胎児毒性試験法の確立に向けた基盤研究	400,000	120,000
		石神 昭人	老化制御	認知症早期臨床検査診断薬の開発	1,000,000	300,000
		青柳 幸利	社会参加と地域保健	体動計 24 時間装着に基づく身体活動・不活動・睡眠が健康長寿に果たす相互作用の解明	1,400,000	420,000
		遠藤 昌吾	老化脳神経科学	運動学習における分散効果の神経機構	1,500,000	450,000
		小林 江里香	社会参加と地域保健	高齢者の若年世代への態度と支援に関する研究	1,900,000	570,000
		豊田 雅士	老年病態	「臓器の老化」により変化する幹細胞分泌因子の探索と組織再生機序の解明	900,000	270,000
		重本 和宏	老年病態	筋の代謝変換のメカニズムの解明とその制御による治療薬の開発	1,400,000	420,000
		伊東 美緒	福祉と生活ケア	認知症の人と介護する配偶者を対象としたライフストーリープロジェクト	900,000	270,000
	☆	藤原 佳典	社会参加と地域保健	安静時脳糖代謝量と歩行機能低下の因果関係の解明	2,800,000	840,000
	☆	栗田 主一	自立促進と介護予防	離島における認知症支援体制構築マニュアルの開発	800,000	240,000
	☆	新開 省二	社会参加と地域保健	ミトコンドリア機能異常は高齢期の重要な負の健康アウトカムに関与するか	1,700,000	510,000
	☆	田中 雅嗣	老化制御	慢性甲状腺炎に伴う自己免疫性橋本脳症の背景遺伝子多型の網羅的解析	1,700,000	510,000
若手研究 (B)	21件	木村 百合香	老年病態 (協力研究員)	老人性難聴の分子病理学的解析～蝸牛外側組織に焦点を当てて～	600,000	180,000
		初田 裕幸	老年病理学	アミロイドイメージングの形態病理学的基盤による臨床診断的意義の検討	1,000,000	300,000
		柳井 修一	老化脳神経科学	抗認知症薬併用療法の行動学的基礎研究	900,000	270,000
		板倉 陽子	老年病態	老化に伴う疾患予防及び治療へ向けた老化指標解明のための基盤研究	1,400,000	420,000
		仙石 鍊平	老年病理学 (協力研究員)	パーキンソン病の早期診断にむけて一嗅球体積評価一	700,000	210,000
		東原 真奈	老年病理学 (協力研究員)	小児神経筋疾患の非侵襲的鑑別診断を目的とした、表面筋電図解析法の研究開発	800,000	240,000
		村山 洋史	社会参加と地域保健	有効な地域看護実践に向けた地域環境評価一近隣環境は健康にどう影響するか一	1,300,000	390,000
		中里 和宏	福祉と生活ケア	在宅療養支援機関におけるグリーフケアの促進に関する研究	800,000	240,000
		津元 裕樹	老化機構	質量分析法を用いたニトロシル化タンパク質の高感度分析法の開発	1,400,000	420,000
		森 秀一	老年病態	疾患動物モデルを用いた抗 MuSK 抗体陽性重症筋無力症の治療薬探索と病態機序の解明	1,100,000	330,000
		青木 彩	老年病理学 (協力研究員)	鳩山町研究における加齢黄斑変性の有病率及び栄養疫学調査	190,000	57,000
		枝広 あや子	自立促進と介護予防	地域在住認知症高齢者への効果的な食事ケア介入の提案	1,000,000	300,000
		渡邊 信博	老化脳神経科学	深部痛覚に対するタッチの効果とその神経性機序	1,700,000	510,000
	☆	金 美芝	自立促進と介護予防	地域在住後期高齢者における虚弱化予防に向けた睡眠と身体活動パターンの解明	1,400,000	420,000
	☆	平山 亮	福祉と生活ケア	支援ニーズをめぐって息子介護者と支援者の認識が一致／乖離する条件の探索	400,000	120,000
	☆	石岡 良子	福祉と生活ケア	中年期の職業性ストレスと仕事の複雑性が高齢期の認知機能に及ぼす影響の検討	800,000	240,000
	☆	川上 恭司郎	老化機構	神経炎症におけるエクソソームの役割と作用機序の解明	1,800,000	540,000
	☆	涌井 智子	福祉と生活ケア	家族介護力の将来予測と介護における地域役割の明確化	1,800,000	540,000
	☆	西 真理子	社会参加と地域保健	居住地域に対する高齢者の「コミュニティ感覚」の向上を目指す地域介入研究	1,500,000	450,000
	☆	山田 健之	老化機構	先天性筋ジストロフィー症の脳形成異常における糖鎖機能の解析	1,500,000	450,000
	☆	坂田 礼	老年病理学 (協力研究員)	正常眼圧緑内障 - 進行因子の解明および自然経過 -	600,000	180,000
特別研究員奨励費	2件	清野 諭	社会参加と地域保健	機能的予備力に着目した高齢期の虚弱化把握と介入プログラムに関する研究	800,000	240,000
		平山 亮	福祉と生活ケア	息子介護者のサポートネットワーク構築に関わる心理社会的条件の検討	700,000	210,000

※☆新規採択者

	直接経費	間接経費
計76件	154,454,217	46,336,265

老年学公開講座 開催予定

 手話通訳あり。事前申込み不要。

講 演：第132回老年学公開講座

「介護予防は生活習慣の改善から」

日 時：平成26年7月25日(金) 13:15から16:30

場 所：練馬文化センター大ホール(当日先着順1,400名)

東京都練馬区練馬 1-17-37

最寄り駅 西武池袋線 練馬駅 北口徒歩1分

西武有楽町線 練馬駅 北口徒歩1分

都営地下鉄大江戸線 練馬駅 北口徒歩1分

**入場無料
事前申込不要
当日先着順
1,400名**

講 演：第133回老年学公開講座

「ヒートショックから熱中症まで —季節変化と健康危機—」

日 時：平成26年9月4日(木) 13:15から16:30

場 所：板橋区立文化会館大ホール(当日先着順1,200名)

東京都板橋区大山東町51-1

最寄り駅 東武東上線 大山駅 北口徒歩約3分

都営三田線 板橋区役所前駅 A3出口徒歩約7分

**入場無料
事前申込不要
当日先着順
1,200名**

第134回	平成26年10月21日(火) 北とぴあさくらホール (定員1,300名)	第136回	平成27年1月26日(月) 文京シビックホール大ホール (定員1,800名)
第135回	平成26年11月20日(木) 調布市文化会館たづくり くすのきホール(定員500名)	第137回	平成27年3月3日(火) 柏江エコルマホール (定員700名)

主なマスコミ報道

H26.3 ~ H26.5

社会参加と地域保健研究チーム 研究部長 新開 省二

●「健康『新基準値』の正しい読み方 2014 決定版」

(文藝春秋「週刊文春」2014年5月22日号 H26.5.14)

社会参加と地域保健研究チーム 研究員 安永 正史

●「シニアによる絵本の読み聞かせ社会活動へ」

(株式会社ジャパンライフデザインシステムズ「self doctor club」H26.3.3)

社会参加と地域保健研究チーム 研究員 谷口 優

●「1分で知る豆医学」

(朝日新聞社「朝日新聞」H26.4.29)

自立促進と介護予防研究チーム 研究部長 栗田 圭一

●「認知症新時代、『家族』『環境』の安定が大切」

(毎日新聞社「毎日新聞」H26.3.25)

●「入口の仕組みづくりを、認知症初期支援の重要性を指摘」

(北海道医療新聞社「介護新聞」H26.4.3)

自立促進と介護予防研究チーム 専門副部長 平野 浩彦

●「認知症の人への食行動の課題と支援法について」

(秋田放送ほか「ドクターごとうの“熱血訪問クリニック”」H26.5.12 ~ H26.5.18)

福祉と生活ケア研究チーム 研究部長 石崎 達郎

●「Japan Moves to Limit Bedbound Elderly On Feeding Tubes」

「Government plans to cut number of elderly kept alive on feeding tubes」

(Bloomberg News「Bloomberg News」

H26.3.24、「Japan Times」H26.3.25)

福祉と生活ケア研究チーム 研究副部長 大淵 修一

●「実はあなたも!? 骨粗しょう症」

(NHK「あさイチ」H26.4.16)

編集 後集 記

2010年に南アフリカで開催されたFIFAワールドカップでは、男子日本代表が自国開催以外で初の決勝トーナメント進出を果たしました。この大会のベスト4は、スペイン、オランダ、ドイツ、ウルグアイで、いずれも強豪国と呼ばれる国々ですが、その人口はいずれも1億人未満です。ウルグアイに関しては、横浜市とほぼ同数の350万人です。人口や経済状況に関係なく、自国のプライドをかけて頂点を目指して戦う選手の姿には、幾度となく心が熱くなりました。今年のワールドカップでは、日本代表が活躍することを心から願っています。(日本代表応援隊)



平成26年7月発行

編集・発行：地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター 東京都健康長寿医療センター研究所（東京都老人総合研究所）編集委員会
〒173-0015 板橋区栄町35-2 Tel. 03-3964-3241 FAX.03-3579-4776

印刷：コロニー印刷

ホームページアドレス：http://www.tmghig.jp/J_TMIG/J_index.html

無断複写・転載を禁ずる